

西日本版

鳥取県 タクシー5年計画

3台に1台UDに

日本財団が車両購入費支援



UDタクシーに試乗する車いすの子ども（鳥取市、日本パラ陸上大会）＝写真は3枚とも日本財団提供

ボランテアの先進県を14社に導入した。年内まで目指す鳥取県は、県内を走る計100台を普及させた。タクシーのおよそ3台に1台を、車いすのまま乗り込めるユニバーサルデザイン(UD)にする取り組みを進めている。まずは4月、鳥取県内を走るタクシーに14台、県東部のタクシーは739台。このうち約3

2016年前半の中国・四国の耳目を引いたタクシー関係のニュースといえ、いよいよ始まった鳥取県と日本財団によるタクシーのユニバーサルデザイン化と、景気回復への期待感や減車は各社の判断に任せるべきなどの理由で、岡山や高松などでタクシー特定地域への指定に「NO」を表明したことはなかったか。特定地域の指定を見送ったことで、今後の活性化への取り組みに注目が集まっている。鳥取、岡山、高松の動きをまとめた。



ユニバーサルデザインタクシー運行開始式

4月に鳥取砂丘コナン空港で行われたUDタクシーの運行開始式には平井伸治知事（左から4人目）も出席

割にあたる200台を2030万円。鳥取県ハイヤー15年度から20年度までのタクシー協会（船越克之会長）に委託し、UDドライバーの育成など研修費に使用している。日本財団との共同プロジェクトの中の1事業で、財団とは高齢者や障害者、車いす、妊婦やベビーカーなどに優しい公共交通環境の整備を目指すこととで昨年11月に協定を締結した。プロジェクトに掛かる総予算は約30億円で、このうちタクシーのUD化事業には約6億円が充てられる。UDタクシーを導入する各社に対し、財団が車両（日産NV200バネット）の購入費を支援する。

UD研修費は県ソフト面を支援

車両購入費というハード面は財団が受け持つのに対し、県はUD研修費というソフト面でタクシー業界を支援する。県の今年度のタクシーUD化事業予算は1



UDタクシーに貼られたステッカー

年内に計100台のUDタクシーを普及させたい考えで、7月に米子市や倉

年内にUDタクシー100台導入目指す

UDタクシーの運行開始式は鳥取市の鳥取砂丘コナン空港で平井伸治知事も出席して4月29日に行われ、まずは県東部のタクシー14社に1台ずつ計14台が導入された。

吉市、鳥取市でタクシー乗り場の整備も進める。Uが低いために福祉タクシー業者に向けて説明会を開催。Dタクシーの最低保有台数と誤解されて敬遠されるケースもあることから利用促進、高齢者や障害者、車いすや運行に関するルールづくりなどにも着手する予定。進に向けた広報活動も県内乗り降りしやすいタクシーUDタクシーへの認知度外で行う。